

# 聖化

Japan Holiness Association

〔発行〕日本聖化協力会

2011.4.26  
No.49



## 輝く聖化の福音

岡山聖化交友会会長

工藤 弘雄

聖化は福音の中心です。聖化されることによって神から義と認められる、聖化は義認の前提であるとして、ウェスレーは神への全き献身を求め、聖化を追求しました。しかし、彼はあのオールダースゲイトの「不思議に心あたたまる」体験によってコペルニクス的方向転換をしたのです。それは、律法の下における聖化の追求ではなく、ただ信仰によって義と認められ、罪と死の法則から解放され、全き聖化に至るという恩寵の下における聖化の発見でした。言うなれば、信仰義認が聖化の前提となり、義とされた者は全き聖化へと進み、主のみ姿へと刻々と変えられていくというものでした。ただウェスレーにおいて、聖化の手段が律法か恩寵かの決定的差異はあったとしても、「主の御姿に」という聖化の概念と目的は不変でした。義認と聖化を切り離さない。しかし、両者を混同しない。ここに健全な聖化論があります。聖霊の働きによる、認罪や悔い改めという先行恩寵、救いの信仰による義認・新生、さらに内在の罪の発見とその罪からの解放、そして全き愛と主のみ姿への無限の成熟！まさに輝く聖化の福音です。クリスチャン・ホーリネスには四つのパースペクティブ（視座）があります。聖書的、歴史的、

神学的、そして実践的パースペクティブです。旧約の信仰の父祖たちや士師、王、祭司、預言者たちも、新約の主イエスや使徒たちも、輝く聖化の福音を語り、これに生きました。聖書全巻には輝く聖化の福音が縦断しています。

古くは使徒教父や東西の教父たちも、宗教改革者たちから、近世の清教徒、敬虔主義の人々、メソジスト、リバイバリストたちも、彼らが奏でる救いの主旋律はやはり輝く聖化の福音でした。

組織神学、特に救済論の中核はやはり輝く聖化の福音です。フレッチャーは、私たちと三位一体の神との人格的知り合いに、御父、御子、御霊の三段階があると言いました。つまり、創造者、贖罪者、聖め主との深み行く人格的知り合いという三つのディスペンセーションです。とすれば、救いの中核は聖化を他にしてありません。

しかし、輝く聖化の福音は、私たちの人格と生活に、生涯と奉仕に、礼拝、祈り、伝道、宣教、愛のわざに、生ける主の臨在の下でどれだけ実践的に具体的に生かされているでしょうか。

日本におけるあらゆる福音活動は聖化の恵みと切り離すことはできません。聖化協力会の使命と重荷は極めて重大であると知らされることです。

### もくじ

- |                  |     |                       |     |
|------------------|-----|-----------------------|-----|
| ●巻頭言メッセージ.....   | p.1 | ●「パウロの生涯と聖化の神学」.....  | p.4 |
| ●日本聖化協力会の展望..... | p.2 | ●今年の聖化大会、カニンガム師紹介 ... | p.5 |
| ●ハーバー博士講演要旨..... | p.3 | ●本の紹介、編集後記.....       | p.6 |

発題講演：この講演は2011年3月7日の第4回評議委員会で、「日本聖化協会のあり方とこれからの展望」のテーマの下に行われたものです。「聖化」誌のために、松沢力男先生に改めてまとめていただきました。

# 日本聖化協会の展望



日本聖化協会副会長  
松沢 力男

## 日本聖化協会の展望

### 一、経緯と現状

日本聖化交友会が一九八五年二月に聖化の宣証、究明、普及を目的として、設立された。二〇〇八年三月には名称が変更され、出版委員会が設けられ、地域的組織に加えて、教団教派単位の参加をも進めてきて、二〇一一年三月現在一〇の地域と一三の教団教派が参加している。この会は、地域という横糸と教団教派という縦糸とがうまく織りなされている独特のものがある。

### 二、全国大会の開催

以前から、良き交わりにより、励まされてきたが、五年か一〇年位に一度は、全国大会が開かれることによって、交わりもより深められ、広められ、盛り上がり、互いの励ましになると思う。この全国大会においては、全き聖化の神学的部門、聖化の説教、聖化の証し、聖化と宣教などが取り上げられたら良いと思う。

### 三、日本人による神学的書物の出版

すでに良い書物が出版されているが、日本人による聖化の教科書的なわかりやすい書物や日本人の手による、聖化に基づいた組織神学なども必要である。さらに、組織神学の枠組みの中に、聖化論をしっかりと位置づけないうと聖化がやはり疎かになっていくと思われる。組織神学を説教化した「栄光の富」(I、II、III、IV)(日本ホーリネス教団出版局)などは、非常に素晴らしいので、参考となると思う。

## 四、この会の目的の形骸化防止と健全な継承

(1) 教会において、教区や教団において、聖化の重要性が説かれ、個人において、それが体験されることとその体験が絶えず、再確認され、成長していくことが大切である。

(2) そのために聖化の説教の研鑽をし、聖化の説教者を掘り起こすことが重要である。

(3) 若い教職者や信徒の方が積極的に参加できる内容の集会を目指し、参加を促すことが大切である。

### 五、この会の展開

(1) 聖化というものは、恵みであり祝福であり、また、すべてのキリスト者が体験するべきものであるから、きよめを信する群れだけでなく、他の教派や団体に属するキリスト者にも参加する機会を設け、誘うことも大切である。

(2) 聖化を信じる者の中では、御霊の実が強調されるが、聖書は聖霊の賜物も教えている。そして、教会形成においては、聖霊の賜物も重要である。この関係と調和を整理し、それを伝えていく必要がある。

(3) この会は、リバイバルのために祈り、それが実現するように努め、全き聖化の個人的体験、聖化に基づいた教会形成を強調し、そして、日本宣教、アジア宣教、及び世界宣教に大きな貢献をすることを目指すべきである。

(4) なお多くの地域で聖化のグループが起こされて、加わるように促し、また、全き聖化を信じる教団教派をもっと参加するように祈り、勧めるべきである。

ジョン・ウェスレーの聖化の神学に立つ私たちは、先行的恵み、回心の恵み、聖化の恵み、そして栄化の恵みというように、恵みを神学の中心に位置づけます。さて恵みとは自然に感じるものではなく、飲み物や食べ物のように実際に手にとって自分のうちにとりいれるような面があります。パウロは「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた」と述べましたが、その「良い行い」とは、まさしく恵みを受けとめていく行いであり、恵みの手段の活用です。そうしてたましいの養いになるものを自分の内にとりこみ、キリストにあって造られていくのです。

ウェスレーは自らの霊的営みを恵みの手段によって形成し、これを通してディボーション的な歩みを実践していました。こうした歩みこそが、聖化を追求する私たちにとっての一つの模範となりますが、そこから四つのことを学んでみましょう。

\*

第一に、ウェスレーの模範は大切なメッセージを土台としています。それは神の愛です。神は私たちを愛し、私たちも神を愛し、そしてその交わりを通して愛が私たちのうちに全うされていくのです。

第二に、ウェスレーの模範は恵みを受ける手段を示しています。この点については、『信仰生活の手引き』の中で詳しく述べましたが、ここではその要点を紹介しましょう。恵みの手段には、聖書中で制定された私たちの歩みの中で恵みを受けていく手段と、教会歴史の中で確認された私たちの歩みの中で恵みを表していく手段の二種類がある

スティーブ・ハーパー博士講演

## ジョン・ウェスレーの ディボーションの歩みに見る ホーリネス



2010年の聖化大会で語られたハーパー博士の講演の要旨です。

エペソ人への手紙 2章 4～10節

ります。聖書中で制定された手段には、祈禱、聖書拝読、聖餐、断食、そしてクリスチャン相互の交わりがあります。また、歴史を通して確認されてきた手段には、傷つけないこと、善き行いに励むこと、神の命令を守ることです。一つ注意しておきたいのですが、これらはあくまで手段であって目的ではありません。恵みを受けるために励むべきですが、行為そのものが目的となつてはいけません。

第三に、ウェスレーの模範には、その手段を実践するための励ましとなるものが示されています。初期メソジストは、ソサエティ、組会、そして班会などを組織し、クリスチャンが共に集い励まし合い助け合う方法を活用しました。

第四に、ウェスレーの模範には、恵みによって動かされていく使命がありました。神からの恵みを受けて内輪で満足し合って終わりになることの無いようにしていました。メソジストのクリスチャンらは隣人に福音をあかしし、聖化の恵みを互いに分かち合い、そして社会悪にも立ち向かっていました。

\*

牧師がどんなに頑張ってみても、信徒の一人ひとりが恵みを受け、またその恵みを実生活で表さない限り、福音が広まったり社会が変わっていくことはありません。ウェスレーの恵みの神学に立つ私たちお互いが、恵みの手段を活用して神の恵みに成長し、また神の恵みを隣人と社会に表していくとき、聖書の聖化の喜びを真に体験できるのです。



日本聖化協力会出版委員会 2010 年発行

# パウロの生涯と聖化の神学

いわがみ たかひと  
岩上 敬人 著

定価：3,800 円＋税



● ● ● 著者である岩上敬人先生に、『パウロの生涯と聖化の神学』  
● ● ● が目ざしたところ、本書の特徴などを紹介していただきました。  
● ● ● まだお読みになっておられない方は、この機会にぜひご  
購読ください。

本書は新約聖書学でも、特にパウロ神学という分野で聖化の問題を扱っています。きよめについて神学的に重要なテキストであるローマ書、第一コリント、第一テサロニケを詳細にわたる釈義に踏み込んで扱えたのは意味のあることだったと信じています。（将来的には広く聖書全体から聖書のきよめを深めていくことができればと願っています。）また本書はパウロの生涯と年代（一章）やその当時の手紙の執筆や修辞学についても取り上げていて（二章）、使徒パウロについての入門書の側面も持たせています。

さて、本書の根底にあるのは「聖書のテキストを文脈の中で読む」という姿勢です。テキストを文脈から切り取って神学的命題を抽出することはもちろん大切ですが、その前にパウロが手紙の読者に何を伝えようとしたのかを研究することも必要不可欠だからです。普通、文脈と言う場合、例えば「ローマ六・19を六・15・23の文脈で理解する」という意味で考えると思いますが、私は文脈をもっと広い意味に捉えています。

一つは、その書全体の文学的・修辞学的文脈の中でテキストを理解するということです。次にその書全体から観察されるパウロや読者（教会）の歴史的・状況的文脈です。最後に、紀元一世紀地中海世界におけるギリシャ・ローマ社会またユダヤ人社会という文化的文脈です。この三層から成る「文脈」の中で「テキスト」を理解することによってパウロが読者に伝えようとした「きよめ」の豊かさを学ぶことが可能になります。

本書の執筆を通して私自身が学んだことを二点記したいと思います。第一に、初時的聖化と転機的聖化の密接なつながりです。神学的に二つの聖化として区別されますが、この二つは一つと捉えられるほど、パウロの中では密接につながっています。信仰者はキリストにあって「聖なる者」であるという思想がパウロの聖化の土台にあります。もちろん、これは旧約聖書から彼が受け継いだものです。これによって、ローマ六章の「神の支配への献身によって聖潔に進みなさい」、一コリント六章の「すでに聖なる者とされたのだからその実質に立ち返りなさい」という二方向の聖化の勧告が成立するのです。パウロにとって「聖なる者としてのアイデンティティ」と「聖なる生活」は切り離すことができないのです。

第二に、パウロの聖化は、個人的聖化と共同体的聖化の両翼から成り立っていることです。個人的聖化は神様との個人的関係を強調しますが、共同体的聖化は対人関係における愛を強調します。パウロの聖化の中心は「教会」という共同体に具現する聖化なのです。具体的には、教会の中で、信仰の実践に関して意見を異にする者たちが互いを受け入れ、互いに励まし合い、叱責し合い、赦し合い、愛し合いながら共同体としての聖化を追求することです。聖化は教会を一つのキリストのからだとして建て上げるのです。

本書を通して、聖書の聖化の理解が深められることを心から祈っています。最後に出版を許して下さい日本聖化協力会に心から感謝申し上げます。皆様の感想やご批判を頂戴できれば感謝です。

## 2011 年度 聖化大会日程

| 大会名            | 期 日       | 講 師    | 会 場             |
|----------------|-----------|--------|-----------------|
| 札幌 第4回北海道聖化大会  | 5月17～18日  | 郷家一二三師 | 北海道クリスチャンセンター   |
| 宮城 第23回仙台聖化大会  | 9月22～23日  | 岩本助成師  | 日基 仙台青葉荘教会      |
| 山形 第16回山形聖化大会  | 9月23日     | 水間昭弥師  | COG 大江町教会       |
| 栃木 第15回栃木聖化大会  | 5月22日     | 笠見 慈師  | 栃木ホーリネス教会       |
| 関東 第7回春の青年大会   | 5月29日     | 西村希望師  | インマヌエル中目黒教会     |
| 第26回関東聖化大会     | 10月16～18日 | カニンガム師 | ウェスレアンホーリネス淀橋教会 |
| 遠州 遠州聖化大会      | 2月20日     | 小野淳子師  | インマヌエル浜松教会      |
| 東海 第18回東海聖会    | 6月25～26日  | 川崎 豊師  | 名古屋一麦教会         |
| 東海 第24回東海聖化大会  | 10月20日    | カニンガム師 | インマヌエル名古屋教会     |
| 大阪 第60回 W に学ぶ会 | 5月31日     | 竿代信和師  | 救世軍セントラルホール     |
| 第61回 W に学ぶ会    | 10月21日    | カニンガム師 | ナザレン大阪桃谷教会      |
| 岡山 第10回岡山聖化大会  | 10月23日    | カニンガム師 | 日本イエス岡南教会       |
| 四国 第4回四国聖化大会   | 6月26日     | 鎌野善三師  | 福音教団徳島聖徒教会      |
| 九州 第22回九州聖化大会  | 10月25日    | カニンガム師 | 兄弟団福岡教会         |



2011 年 聖化大会に講師としてお迎えする

## フロイド・カニンガム博士プロフィール

Dr. Floyd Cunningham



聖化大会主講師 カニンガム博士紹介

フロイド・カニンガム博士は一九五四年九月二二日アメリカ生まれの五六歳です。

イースト・ナザレン・カレッジ、ナザレン・セオロジカル・セミナリー、ジョン・ホプキンス大学で学ばれました。

現在フィリピンにあるアジア・パシフィック・ナザレン・セオロジカル・セミナリー (Asia Pacific Nazarene Theological Seminary) の第五代学長の要職にあられます。

APNTSは、ナザレン教団が、アジア地域において、米国と同水準のウェスレアン神学の真髄を教育し、アジアをはじめ世界への架け橋となるリーダー・人材の養成を目指している神学校です。博士は一九八三年の創設当初から現在まで教授として奉仕してられました。

専攻は歴史神学ですが、組織神学や宣教学などの分野でもコースを教えておられ、フィリピンの地域教会の牧会経験もあられ、学的なレベルはもちろんのこと、説教者としても穏やかで静かな口調ながら、内に秘められた熱い思いが伝わってくるメッセンジャーです。

欧米の宣教師でありながら、アジア各国の文化と密接に関わってこれられ、日本がアジアのホーリネス陣営とよき協力関係を築く上でも、鍵となられる器であられます。

## New Books

出版書籍ご案内

\*信仰生活のためのガイドブック

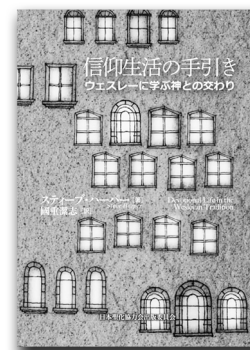
日々のデイボーション（神との交わり）を形作るために——ジョン・ウエスレーから「恵みの手段」を学ぶ——二十一世紀に生きる私たちへの「信仰生活の手引き」。

私たちの信仰を健全に保ち、また教会も成長していくには、広く深いデイボーション（神との交わり）によつて自分の霊性が恵みに育まれていかねばなりません。この本では、ジョン・ウエスレーが提唱した「恵みの手段」を中心に、祈りやみことば、聖餐や互いの交わりなどを通して、恵みを受け恵みに育つ信仰生活を具体的に解き明かします。

信仰生活の手引き

スティーブ・ハーパー 著

一、三〇〇円＋税



本書は、パウロの生涯と年代を丁寧に解説。新約・ローマ時代の「手紙の執筆活動・修辞学」からパウロの手紙を再読。初代教会が直面した課題とその文化的背景からパウロの聖化を詳しく解説しています。

本書は、パウロの生涯と年代を丁

岩上敬人著  
三、八〇〇円＋税

パウロの生涯  
と聖化の神学



牧会者、伝道者として、聖書学者  
神学者として、幅広くキリストに仕  
える著者が、時には説教のように、  
時にはエッセイのように、証しや体  
験談を交えて神の恵みを語る。

牧会者、伝道者として、聖書学者

デニス・F・キンロー著  
三、四〇〇円＋税

エマオの道で  
365日の霊想



新刊書予告 (2012 年の聖化大会の主講師として来日の予定)

今秋に出版予定 マイケル・ロダール著『神の物語』 THE STORY OF GOD

ウエスレー主義神学概論 ―聖書とウエスレーと共同体と―

THE STORY OF GOD は、英ナザレン神学校等で教科書として用いられ、多くの学生がウェスレーに、聖書に、そして神というお方に出会う機会を提供してきました。この本は学術書でなく、信徒向けに書かれています。聖書を神が主人公である物語、私たちがその中へと招かれている物語としてひもときながら、創造から新生、聖化、再臨へと続くウェスレー主義の重要な教理を魅力的に描きます。2008 年に 2nd edition が出版されました。著者ロダールは米ポイント・ローマ・ナザレン神学校の教授です。最近のウェスレー研究には欠かすことのできない東方教父に精通している神学者です。翻訳は明野キリスト教会の大頭真一先生です。



## 編集後記

聖化 49 号をお届けします。この号では、昨年行われた聖化大会や評議員会での講演を載せました。聖化の恵みを深める、大切な内容である

と確信しております。松沢力男先生にはJHAの今後の展望についてのご提言を記していただきました。これをきっかけに、さらに議論を深めていただければと願っております。(矢木良雄)

聖化 No.49 2011年4月26日発行

発行 日本聖化協会 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 電話／Fax 03 (3293) 5130  
E-mail [kiha1985@aria.ocn.ne.jp](mailto:kiha1985@aria.ocn.ne.jp) URL <http://jha.christ.gr.jp/> 編集担当：矢木良雄／錦織 寛